

南ティロルと観光

山田 徹雄

Südtirol und Tourismus

Tetsuo YAMADA

要旨：南ドイツ、オーバー・バイエルンから国境を越えてオーストリア、ティロル州へと広がる観光空間は、ドイツ人の休暇のための空間であることが確認されている。これを踏まえ、さらに国境を越え、イタリアのボーツェン・南ティロル自治県（南ティロル）の検証を行った。その結果、県都ボーツェンを除けば、南ティロルは、ドイツからの訪問者が最も多数を占め、オーバー・バイエルン、ティロル州から連続した観光空間の要素が強いことを論証することができた。

〔はじめに〕

私は、オーバー・バイエルンから国境を越えてティロル州へと広がる観光空間を検証してきた⁽¹⁾。

本稿の課題は、その成果を踏まえて、さらに国境を越えて「南ティロル」へと分析対象を拡大することにある。

その問題意識のもとで、地名はドイツ語表記を主とし、イタリア語表記（および一部、ラディン語表記）は、副次的な併記とする。

1. 南ティロルの定義

ここでは、「ボーツェン・南ティロル自治県」を「南ティロル」と呼ぶ。

「南ティロル」が属する州→南ティロル県→県の属する広域共同体→県都たる基礎自治体の階層構造を〔表1〕に示した。

このヒエラルキーについて、以下の点をあらかじめ指摘しておく。

〔表1〕自治体の階層構造

	イタリア語表記	ドイツ語表記
特別自治州 (イタリア語表記) regione autonoma a statuto special (ドイツ語表記) Autonome Region	トレンティーノ＝アルト・アディジェ自治州 Regione Autonoma Trentino-Alto Adige	トレンティーノ・南ティロル自治州 Autonome Region Trentino-Südtirol
県 (イタリア語表記) provincia (ドイツ語表記) Provinz	ボルツァーノ自治県 Provincia autonoma di Bolzano	ボーツェン・南ティロル自治県 Autonome Provinz Bozen-Südtirol
広域共同体 (イタリア語表記) comunità comprensoriale (ドイツ語表記) Bezirksgemischenschaft	ボルツァーノ広域共同体 comunità comprensoriale Bolzano	ボーツェン広域共同体 Bezirksgemeinschaft Bozen
基礎自治体 (イタリア語表記) comune (ドイツ語表記) Gemeinde	ボルツァーノ市 Città di Bolzano	ボーツェン市 Stadt Bozen

(参考資料) STATUTO SPECIALE



〔図1〕エウレギオ・ティロル＝南ティロル＝トレンティーノ

(典拠) Euregio TST, EVTZ/EUROPAREGION

〔表2〕エウレギオ・ティロル・南ティロル・トレンティーノ (Euregio Tirol Südtirol Trentino)

	ティロル	南ティロル	トレンティーノ
面積 (km ²)	12,648	7,398	6,207
人口	721,574	515,714	536,237
労働力	381,300	254,900	249,500
失業率	3.2	4.4	6.9
GDP (in mrd. of €)	28.8	20.6	18.2

(典拠) Euregio Tirol Südtirol Trentino, Facts and Figures

(1) トレンティーノ・南ティロル自治州は州としての実態はほとんどなく、これを構成するトリエント自治県 Autonomie Provinz Trient (イタリア語表記 Provincia autonoma de Trento) とボーツェン・南ティロル自治県に実質的な自治権が与えられている。「同州の最大の特徴は、州が政治的にも行政的にも「空箱」であるということである。」(工藤裕子)とは至言である⁽²⁾。

なお、トレンティーノ・南ティロル自治州を「南ティロル自治州」と表記(誤記)する事例もあるが、後述するように Euregioでは、「南ティロル」とは、ボーツェン・南ティロル自治県を指す。

(2) ボーツェン・南ティロル自治県は「南ティロル」(Südtirol)とも表記され、人口およそ52万人、そのうち64%がドイツ語を、24%がイタリア語を、4%がレト・ロマンス語群ラディン語を母語(Muttersprache)としている。ラディン語圏は、ドロミテン Dolomiten (イタリア語表記ドロミーティ Dolomiti、ラディン語表記 Dolomites) 渓谷にあるアルタ・バディア Alta Badia およびグレーデン Gröden (ラディン語表記ゲダイネ Gherdëina、イタリア語表記ヴァル・ガルデナ Val Gardena) に限定されている⁽³⁾。

(3) 県政府(Landesregierung)は、最大都市ボーツェンに置かれ、これを県都と呼ぶ。敢えて「県庁所在地」と表記するのを避けたのは、ドイツ語表記のLandeshauptstadt、イタリア語表記のCapoluogo di Provinciaの著す内容を踏まえてのことである。

(4) 1972年までは、県と基礎自治体の中間に郡circondarioが存在した⁽⁴⁾。これに替わって、現在ではトリエント自治県には、渓谷共同体Talgemeinschaft(イタリア語表記le comunità di valle)が、ボルツァーノ・南ティロル県には、広域共同体Bezirksgemeinschaft(イタリア語表記comunità comprensoriale)が置かれている⁽⁵⁾。広域共同体は「目的連合」(Zweckverband)であり、オーストリアのBezirk、ドイツのLandkreisに相当する⁽⁶⁾。いずれも私は、「郡」の訳語をあててきた。

南ティロル県は、オーストリアのティロル州とトリエント自治県に南北から挟まれている。この3地域を合体する形で「エウレギオ・ティロル＝南ティロル＝トレンティーノ」が形成されている（〔図1〕参照）。3地域のなかで、ティロル州が最も大きな面積を有している。地域GDP、失業率でやや劣っているのは、トレンティーノである（〔表2〕参照）。

2. 南ティロル県

2.1.1. 南ティロルと自然環境

南ティロルは1363～1919年には、今日、オーストリアに属するティロル州（北ティロルおよび飛び地である東ティロル）とともに、おおむねハプスブルクの支配下にあったが、第1次大戦後、ブレンナー峠より南はイタリア領となった。南ティロルはドイツ語、イタリア語、ラディン語を公用語としている。地勢的には面積7,400km²のうち、80%が山岳地帯である⁽⁷⁾。

このような地勢を背景に南ティロルには、ひとつの国立公園の他に7つの自然公園が存在している（〔表3〕および〔表4〕参照）。これらは〔図2〕のような地理的分布となっている。

南ティロルには、海拔3,000m以上の高山が多数存在する。それらを一覧にしたのが〔表5〕である。これらのうち、ピーツ・ゼスヴェンナ、ラングコフェル以外はすべて、オーストリアとの国境付近にある。

2.1.2. 南ティロル社会と言語

「国勢調査」(Volkszählungen/Censimenti popolazione)が行われた年度に確認された住民の母語について、1880年以降、現在にいたるまでの推移を〔表6〕に記した。1880年においては、ドイツ語人口が9割を占めていたが、現在では6割強にまで低下した。一方、イタリア語人口は、同時期に3.4%から23.4%まで増加を示した。そのきっかけは、第1次大戦後のイタリア領への編入である。統計では1921年を境にイタリア語人口の増加とドイツ語人口の低減が見られる。それでもなお、ドイツ語が優勢であるのが南ティロルである。

ラディン語人口は、4%前後を保ち、大きな変化は見られない。

〔表3〕南ティロルの国立公園

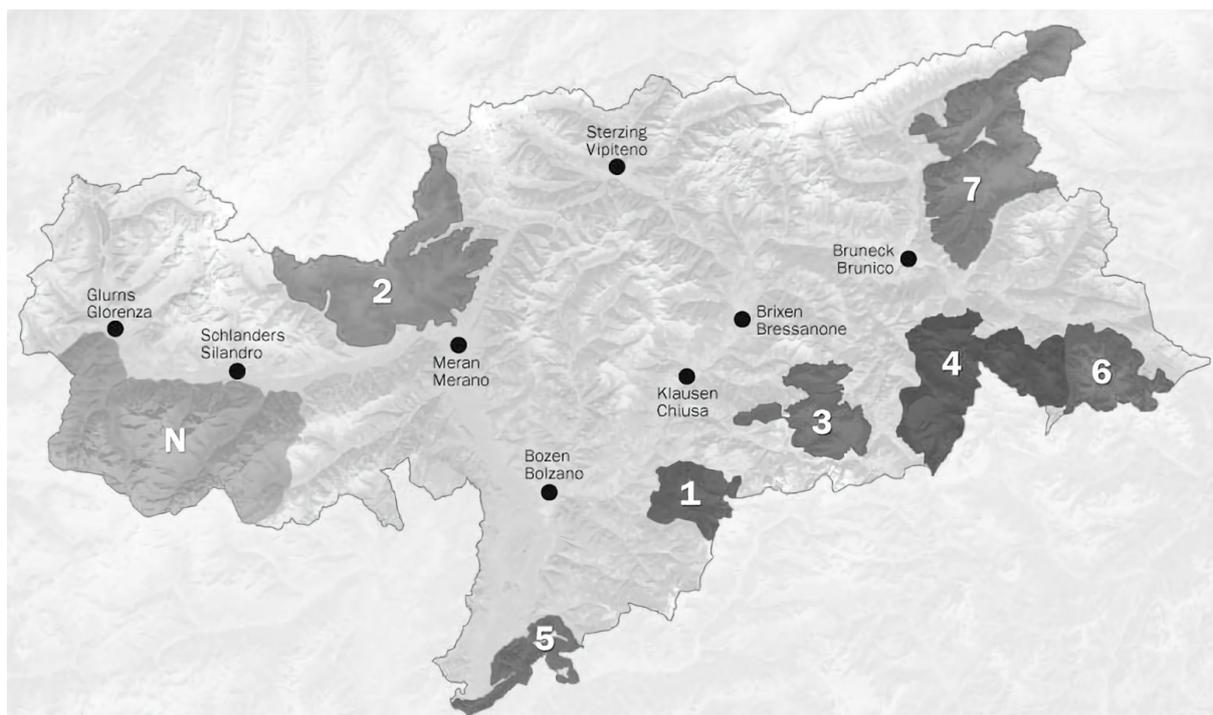
ドイツ語表記	イタリア語表記
シュティルフェーヨーホ国立公園 Nationalpark Stilfser Joch	ステルヴィオ国立公園 Parco Nazionale dello Stelvio

(典拠) Nationalpark Stilfser Joch

〔表4〕南ティロルの自然公園

ドイツ語表記	イタリア語表記
シュレルン＝ローゼンガルテン自然公園 Naturpark Schlern-Rosengarten	シーリアル＝カティナッチョ自然公園 Parco Naturale Sciliar-Catinaccio
テクセルグルッペ自然公園 Naturpark Texelgruppe	グルッポ・デイ・テッサ自然公園 Parco Naturale Gruppo di Tessa
プエツ・ガイスラー自然公園 Naturpark Puez-Geisler	プエツ・オードレ自然公園 Parco naturale Puez Odle
ファネス＝ゼンネス＝プラクス自然公園 Naturpark Fanes-Sennes-Prags	ファネス＝センネス＝ブラーイエス自然公園 Parco Naturale Fanes-Sennes-Braies (ラディン語表記Parch Natural Fanes-Senes-Braies)
トゥルードナー・ホルン自然公園 Naturpark Trudner Horn	モンテ・コロノ自然公園 Parco Naturale Monte Corno
ドライ・ツインネン自然公園 Naturpark Drei Zinnen	トレ・チーメ自然公園 Parco Naturale Tre Cime
リーザーフェルナー・アーン自然公園 Naturpark Rieserferner-Ahrn	ヴェドレット・デイ・リエス - アウリーナ自然公園 Parco Naturale Vedrette di Ries-Aurina

(典拠) IDM Südtirol, Zahlen und Fakten et Autonome Provinz Bozen – Südtirol, Landschaftsleitbild Südtirol



〔図2〕南ティロルの自然公園と国立公園

- 地図中 1. Naturpark Schlern-Rosengarten 2. Naturpark Texelgruppe
 3. Naturpark Puez-Geisler 4. Naturpark Fanes-Sennes-Prags
 5. Naturpark Trudner Horn 6. Naturpark Drei Zinnen
 7. Naturpark Rieserferner-Ahrn N Nationalpark Stilfserjoch
 (典拠) Naturparks in Südtirol, Home

〔表5〕海拔3,000m以上の山頂をもつ山

高山の名称		山系		海拔m
ドイツ語表記	イタリア語表記	ドイツ語表記	イタリア語表記	
オルトラー Ortler	Ortles	Ortlergruppe	Ortles-Cevedale	3,905
ヴァイスクーゲル Weißkugel	Palla Bianca	Ötztaler Alpen	Alpi Venoste di Levante	3,738
ホッフファイラー Hochfeiler	Gran Pilastro	Zillertaler Alpen	Alpi Aurine	3,509
ゾンクラールシュピッツェ Sonklarspitze	Cima di Malavalle	Stubaiier Alpen	Alpi Breonie di Ponente	3,471
ホッフガール Hochgall	Collalto	Rieserfernergruppe	Vedrette di Ries	3,436
ホーエ・ヴァント・シュピツェ Hohe Wand Spitze	Crodalta	Tuxer Alpen	Alpi Retiche	3,289
ピーツ・ゼスヴェンナ Piz Sesvenna	Piz Sevenna	Rätische Alpen	Alpi Retiche	3,205
ラングコフェル Langkofel	Sassolungo	Westliche Dolomiten	Dolomiti Occidentali	3,179
ホーエガイスル Hohe Gaisl	Croda Rossa	Östliche Dolomiten	Dolomiti Oriental	3,146

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.44

〔表6〕南ティロール住民の母語別人口

年度	イタリア語母語		ドイツ語母語		ラディン語母語	
	実数	比率(%)	実数	比率(%)	実数	比率(%)
1880	6,884	3.4	186,087	90.6	8,822	4.3
1890	9,369	4.5	187,100	89.0	8,954	4.3
1900	8,916	4.0	197,822	88.8	8,907	4.0
1910	7,339	2.9	223,913	89.0	9,429	3.8
1921	27,048	10.6	193,271	75.9	9,910	3.9
1961	128,271	34.3	232,717	62.2	12,594	3.4
1971	137,759	33.3	260,351	62.9	15,456	3.7
2081	123,695	28.7	279,544	64.9	17,736	4.1
1991	116,914	26.5	287,503	65.3	18,434	4.2
2001	113,494	24.5	296,461	64.0	18,736	4.0
2011	118,120	23.4	314,461	62.3	20,604	4.1

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.118

〔表7〕南ティロールの産業部門別就業者構成比(%)

農業就業者比率	工業就業者比率	サービス業就業者比率
9.5	21.5	69.0

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.199

2.2. 南ティロールの経済

1950年頃まで、南ティロールの最も重要な産業は農業部門であった。その担い手である農民は、ほぼ全員がドイツ語もしくはラディン語を母語としていた。この傾向は現在でも基本的に変っていない。他のヨーロッパ諸国同様に、南ティロールにおいても農業従事者比率は低下してきたが、それでも当地では1割程度であり、農業部門の重要性はなお、維持されている⁽⁸⁾。

南ティロールは、ヨーロッパ最大のりんご栽培地であり、年間約100万トンの生産量を誇り、それはヨーロッパ全体の収穫量の12%に相当する。

ワイン生産と品質においても南ティロール産は定評があり、その98%がイタリア産ワインの上格に位置付けられるDOC: Denominazione di Origine Controllata (統制原産地呼称ワイン)である⁽⁹⁾。

2.3. 南ティロールと交通立地

ヴェローナからブレンナー峠を経てインスブルックを経由しアウクスブルクに至る街道は古くからドイツとイタリアを結ぶ通商路として存在したことが知られている⁽¹⁰⁾。

14世紀には、このクラウディア・アウグスタ街道からボーツェンで分岐する道路の整備によって、ボーツェンは南ティロールでもっと重要な商業都市となった⁽¹¹⁾。

現在、南ティロールを南北に貫通するアウトバーンおよび幹線鉄道路線は、県都ボーツェンをヴェローナとインスブルックに結んでいる。

「ブレンナー・アウトバーン」Brenner Autobahn (イタリア語表記Ferrovie del Brennero)は、1971年にオーストリアとイタリアを結んだ。

オーストリア側ではA13と呼ばれ、インスブルックから国境のブレンナー峠(海拔1,374m)に至る。イタリア側に入るとA22となり、ボーツェンを経てヴェローナに至り、モデナと結ぶ⁽¹²⁾。

南ティロールの経済、特に観光の興隆に大きな影響を与えたのは、19世紀における鉄道の建設であった⁽¹³⁾。

ブレンナー鉄道Brennerbahn (イタリア語表記Ferrovie del Brennero)は、インスブルック～ブレンナー～ボー

〔表8〕宿泊事業所数 2017年

事業所種類	2017年度事業所(事業者)数
営業用宿泊施設 Gastgewerbliche Beherbergungsbetriebe/ Esercizi alberghieri	4,065
民宿、農家体験民宿 Privatquartiere und Urlaub auf dem Bauernhof/ Alloggi private ed esercizi agrituristici	5,650
その他の宿泊施設 Andere Unterkunftsarten/ Altri esercizi	430
合計 Insgesamt/ Totale	10,145

(注) 営業用宿泊施設とは、ホテル、ペンションなど。その他の宿泊施設には、ユースホステル、キャンプ場、休暇村、休暇施設、山小屋等が含まれる。

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.425

〔表9〕宿泊事業所種別宿泊者数および宿泊件数 2017年

事業所種類	年間宿泊者数	年間宿泊件数
営業用宿泊施設	5,863,511	25,196,302
民宿、農家体験民宿	840,453	4,947,058
その他の宿泊施設	543,338	2,296,743
合計	7,302,364	32,440,103
うち、外国人	4,739,214	22,139,747

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.425

〔表10〕平均宿泊期間(単位・日) 2017年

事業所種類	滞在日
営業用宿泊施設	4.3
民宿、農家体験民宿	5.9
その他の宿泊施設	3.8
合計	4.4
うち、外国人	4.7

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.425

ツェン〜ヴェローナを結ぶ鉄道である。その歴史を辿ろう。

南ティロル鉄道(Südtirolerbahn)は、1859年、ボーツェンからトリエントを経てヴェローナ〜トリエントに至る路線を開通させた。一方、北ティロル鉄道(Nordtirolerbahn)は、1858年にインスブルック〜クーフシュタイン間を開通させたのち、これを延長するかたちで1867年にインスブルック〜ブレンナー〜ボーツェン間を開通させ、これをブレンナー鉄道とした。

同鉄道は、1928年に電化されたが、ブレンナー駅の南北で電化方式が異なるために、直通列車の運行ができなかったが、現在では両電化方式に対応する列車(Eurocity EC 85)の導入によって、ミュンヘンからヴェローナへの直通輸送が行われるようになった⁽¹⁴⁾。

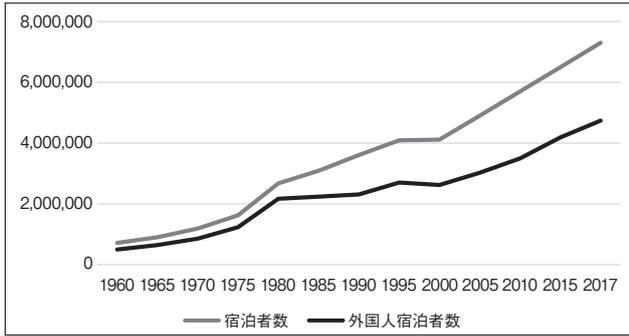
現在、ブレンナー峠の麓を貫く「ブレンナー地下トンネル」Brenner Basistunnel(イタリア語表記Galleria de base del Brennero)が計画され、最高速度250km/hでトンネル内を運行し、イタリアの高速鉄道網に接続する予定である⁽¹⁵⁾。

2.4. 南ティロル県と観光

夏季の温暖な気候と新鮮な山の空気は保養地(Kurort)として南ティロルを特徴付けてきた。第一次大戦前夜にはハプスブルク家がメラーンMeran(イタリア語表記メラーノMerano, ラディン語表記メランMaran)を好んで訪れ、「ドナウ帝国の南テラス」(Südbalkon der Donaumonarchie)と呼ばれた。当時は夏季に訪問者が偏っていたが、現在では年間を通じて観光客が当地を訪れる⁽¹⁶⁾。

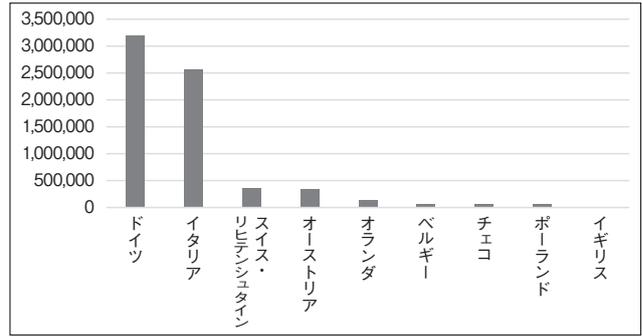
南ティロルには、4,065軒のホテル等の営業用宿泊施設があるが、民宿はこれを上回る5,650軒が存在する(〔表8〕参照)。とはいえ、各施設が収容する宿泊者数では、営業用宿泊室が8割を占めている。また、宿泊者は外国人が64%に達している(〔表9〕参照)。

一方、各施設の滞在期間でみると、民宿は営業用宿泊施設を平均して一日以上上回っていることを〔表10〕が示している。



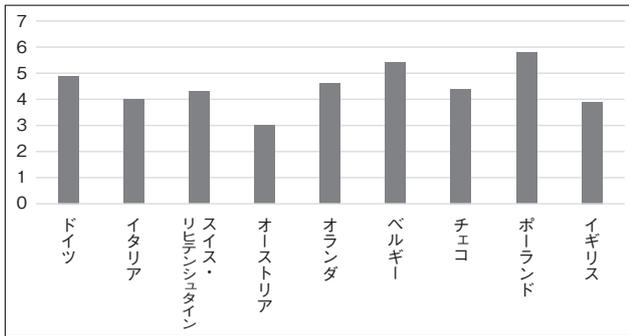
〔図3〕 宿泊者数の推移

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.427より作成



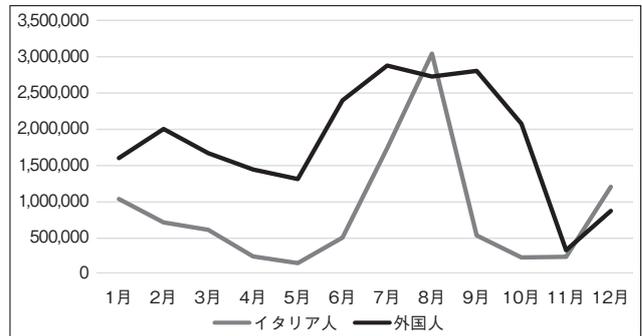
〔図4〕 起点国別宿泊者数

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.427より作成



〔図5〕 起点国別平均滞在日数

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.427より作成



〔図6〕 月別宿泊者数

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.430より作成

〔図3〕に、1060年以降の年間宿泊者数の推移を示した。この地域が順調に観光客を呼び込んできたことが分かるであろう。とくに1980年以降は、国内からの宿泊者の伸びが相対的に大きい。

起点国別に宿泊者の動向をみると、なんとといってもドイツからの訪問者が最大であり、イタリア国内からの訪問客を上回っている(〔図4〕参照)。滞在期間においては、ベルギー、ポーランドなど遠隔地からの宿泊者が相対的に長期滞在する一方、イタリア国内、オーストリアなど近隣からの宿泊者は比較的、短期滞在である(〔図5〕参照)。

年間を通して宿泊動向を観察したのが〔図6〕である。年間を通して外国人がイタリア人を上回っているなか、8月に限っては、イタリア人宿泊者が突出する。

3. 南ティロルの広域共同体

3.1. 南ティロル広域自治体の社会

南ティロル県の基礎自治体は、〔表11〕に示した目的連合である広域共同体を形成している。但し、このうち、県都ボーツェンのみ、単独の自治体で広域自治体と同格とされている。これら空間的に見ると、〔図7〕のようになる。

これらのうち、ボーツェンは人口が最多であり、かつ人口密度も突出している。ボーツェンが南北を結ぶ交通の結節点として、メッセ都市(Bozner Messe)として登場するのは、1200年頃である。商業・メッセ都市(Handels- und Messestadt)としての基本的性格は今も変わっていない⁽¹⁷⁾。県内第二の都市メラーンを有するブルクグラーフエンアムトが人口、人口密度ともにボーツェンに次いでいる。

この地域の言語状況を〔表13〕でみると、フィンシュガウの96.84%を筆頭にドイツ語人口が支配的である。そのなかで、ボーツェンのみ、イタリア語人口73%に対して、ドイツ語人口は26.29%に過ぎない。

1822年、イタリアにおけるファシストの政権掌握の直後、南ティロルはイタリア化計画(Italianisierungsprogramm)が始まった。そのなかで、ボーツェン工業ゾーン(Industrierzone Bozen)が設置され、イタリア北東部から多数の

〔表11〕南ティロルの広域共同体

ドイツ語表記		イタリア語表記	
フィンシュガウ	Vinschgau	ヴァル・ヴェノスタ	Val Venosta
ブルクグラーフエンアムト	Burggrafenamt	ブルグラヴィアート	Burgraviato
ユーバーエツチュ＝南ティロルウンターラント	Überetsch Südtiroler Unterland	オルトラディジェ＝バッサ・アテシーナ	Oltradige-Bassa Atesina
ボーツェン	Bozen	ボルツァーノ	Bolzano
ザルテン＝シュレルン	Salten-Schlern	サルト＝シリアル	Salto-Sciliar
アイザックタール	Eisacktal	ヴァッレ・イザルコ	Valle Isarco
ヴィップタール	Wipptal	アルタ・ヴァッレ・イザルコ	Alta Valle Isarco
プスタータール	Pustertal	ヴァル・プステリア	Val Pusteria

Comunità comprensoriali nell'Alto Adige
Bezirksgemeinschaften in Südtirol



〔図7〕南ティロルの広域共同体

(典拠) <https://de.wikipedia.org/wiki/Bezirksgemeinschaft>, 12.10.2019

〔表12〕広域共同体の面積および人口
2011年度国勢調査を基準

広域共同体	面積 km ²	人口	人口密度 km ² あたり
フィンシュガウ	1,441.68	35,317	24
ブルクグラーフエンアムト	1,100.73	97,745	89
ユーバーエツチュ＝ 南ティロル・ウンターラント	423.60	71,606	169
ボーツェン	52.34	102,575	1,960
ザルテン＝シュレルン	1,026.63	48,291	47
アイザックタール	623.78	50,210	80
ヴィップタール	651.01	19,243	30
プスタータール	2,071.66	79,656	38

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.47

〔表13〕広域自治体における母語人口比率(%)

広域共同体	イタリア語	ドイツ語	ラディン語
フィンシュガウ	3.06	96.84	0.10
ブルクグラーフエンアムト	21.06	78.66	0.28
ユーバーエツチュ＝ 南ティロル・ウンターラント	31.57	68.05	0.38
ボーツェン	73.00	26.29	0.71
ザルテン＝シュレルン	4.03	77.15	18.82
アイザックタール	13.22	85.76	1.02
ヴィップタール	14.32	85.31	0.37
プスタータール	5.64	80.96	13.54

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.122

〔表14〕ラディン渓谷の言語別人口比

イタリア語	ドイツ語	ラディン語
3.91	5.80	90.29

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.122

〔表15〕ラディンの5つの渓谷

ドイツ語表記	イタリア語表記	ラディン語表記
Gadertal	Val Badia,	Val Badia/ Badiot
Grödnertal	Val Gardena	Gherdëina
Fassatal	Val di Fassa	Fascian
Livinalongo	Livinalongo	Fodom
Ampezzo	Ampezzo	Anpezo/ Ampezan

(典拠) Ladinia, Die ladinische Sprache et Ladinia, La lingua ladina



〔図8〕ラディン渓谷群

(典拠) Ladinia, La lingua ladina / Nosc lingaz dla uma: La lingua delle cinque vallate della Ladinia nelle Dolomiti, in interrete sub: <http://www.ladinia.it/it/informazioni/394/ladinia/la-lingua-ladina>, 12.10.2019

〔表16〕産業別就業者比率 (%) 2011年

広域共同体	農業就業者比率	工業就業者比率	サービス業就業者比率
フィンシュガウ	17.7	25.1	57.3
ブルクグラーフエンアムト	11.3	18.6	70.1
ユーバーエッチュ=南ティロル・ウンターラント	13.4	19.5	67.0
ボーツェン	3.4	15.5	81.2
ザルテン=シュレルン	10.5	24.9	64.6
アイザックタール	8.2	25.0	66.8
ヴィップタール	7.7	23.8	68.6
プスタータール	7.9	27.3	64.8

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.199

労働者が流入した。さらに、ボーツェンの人口は、1935～1947年に1,900人の増加をみたが、その88%がイタリア人の流入によっている⁽¹⁸⁾。

3.1.1. ラディン渓谷と言語

「ラディン渓谷群」Ladinischer Täler (イタリア語表記「ラディンの5つの渓谷」Le cinque vallate della Ladinia) においては、人口の9割以上がラディン語を母語とする特異な地域である (〔表14〕参照)。

「ラディン渓谷群」は5つの小さな谷から形成されている。それらを3つの公用語で表記すると、〔表15〕のようになる。

3.2. 南ティロル広域共同体の産業構造

南ティロルの各広域共同体は、いずれもサービス業就業人口比率が多い。特に商業都市ボーツェンにおいてはそれが8割以上に達し、南ティロル第2の都市メラーンを有するブルクグラーフエンアムトがそれに次ぐ7割を占めている。

農業就業者比率が最も少ないのはボーツェンで3.4%に過ぎない。前日したように農業従事者のほとんどがドイツ語もしくはラディン語を母語としていることを考え合わせると、ボーツェンはイタリア人が支配的な商業・工業の都市であり、それは南ティロルでは例外的な存在である。

3.3. 南ティロル広域共同体と観光

広域共同体別に年間宿泊者数を〔表17〕に示した。

〔表17〕南ティロル広域共同体別宿泊状況 2017年

広域共同体	宿泊者数	宿泊件数	平均滞在期間(日)
フィンシュガウ	560,159	2,384,140	4.3
ブルクグラーフエンアムト	1,504,926	7,206,337	4.8
ユーバーエツチュ=南ティロル・ウンターラント	551,639	2,263,744	4.1
ボーツェン	321,173	664,877	2.1
ザルテン=シュレレン	1,131,067	5,700,296	5.0
アイザックタール	731,220	2,947,560	4.0
ヴィップタール	401,441	1,372,289	3.4
プスタータール	2,100,759	9,900,080	4.7

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.428

〔表18〕外国人宿泊件数比率 %

広域共同体	外国人宿泊件数比率 %
フィンシュガウ	80.5
ブルクグラーフエンアムト	88.9
ユーバーエツチュ=南ティロル・ウンターラント	85.2
ボーツェン	64.4
ザルテン=シュレレン	62.9
アイザックタール	73.2
ヴィップタール	60.0
プスタータール	49.4

(典拠) Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018, p.428

宿泊者数が最も多い広域共同体であるプスタータール(210万人)は3つの自然公園(〔図2〕の自然公園4, 6, 7がこれにあたる)を抱え、それが多数の自然を求める観光客を呼び寄せていると考えられる。それに次いで宿泊者が多いブルクグラーフエンアムト(150万人)の中心地メラーンは、ハプスブルク時代からの保養地である。ザルテン=シュレレン(113万人)は、県都ボーツェンに接し、アクセスが良好である。

平均滞在期間が短いのは、都市ボーツェンであり、同時に宿泊者数も最小である。

次に各地の外国人宿泊件数を〔表18〕で確認する。

外国人比率が最も高いブルクグラーフエンアムト(88.9%)の中心地メラーンは高速道路MeBo(Superstrada MeBo)によってボーツェンと結ばれ、そこからブレンナー・アウトバーン(アウトストラダA22)によってオーストリア、ドイツと連絡する点で、交通のアドヴァンテージが高い。

ユーバーエツチュ=南ティロル・ウンターラント(85.2%)はまさに、A22が縦断している地域にある。

フィンシュガウ(80.5%)は、ブレンナー・アウトバーンからのアクセスはボーツェン、メラーンを経由することになり、難点があるが、レシェンパス Reschenpass od. Reschen(イタリア語表記Passo Resia)等を経由してドイツ、オーストリアなどと簡単にアクセスすることができる⁽¹⁹⁾。

外国人比率が小さいプスタータールは、ドイツ、オーストリアからのアクセスに難がある。列車であればドイツ、オーストリアからはローカル線に乗り換える必要がる。車であればアウトバーンから一般道へ分岐しなければならない。あるいは、ティロル州の飛び地である東チロルを経由せざるをえない。

〔小括〕

南ティロルは、ドイツからの訪問者が最も多数を占め、オーバー・バイエルン、ティロル州から連続した観光空間の一部であると考えられる。そのうえ、この地域は全体として、ドイツ語圏でもある。一方で南北に縦貫する鉄道と幹

線道路は、ドイツ方面からの観光客と同時に、イタリア国内を起点とする訪問者も、前者の8割程度の水準にある。特に県都ボーツェンは、イタリア語圏でもあり、イタリア人の観光地といえるであろう。

注

- (1) 山田 (2015)、山田 (2017)
- (2) 工藤、p.185-187
- (3) IDM Südtirol, Zahlen und Fakten et IDM Südtirol, Regionen: Dolomieten
- (4) 自治体国際化協会『イタリアの地方自治』、p.38-39
- (5) STATUTO SPECIALE
- (6) S-Landesregierung, Bezirksgemeinschaft
- (7) IDM Südtirol, Zahlen und Fakten
- (8) WIFO
- (9) IDM Südtirol, Zahlen und Fakten
- (10) 山田 (2018)、p.47-49
- (11) WIFO
- (12) ÖAMTC, Brenner Autobahn, Context KKI, Brenner Autobahn AG, Titi tudorancea travel info, Regions, et Brenner-Autobahn AG (1972)
- (13) WIFO
- (14) Denoth (2008) , p. 9, 19, 94, et Facchinelli (1995)
- (15) WIFO
- (16) WIFO
- (17) WIFO
- (18) WIFO
- (19) フィンシュガウの観光を紹介するイタリア語のサイトでは、この地域への車のアクセス (Come arrivare in macchina) では、南から (Da Sud) のルートとして、アウトバーン A22 (Autostrada del Brennero A22) を経由してボーツェンから入る経路のみ掲載されている。(IDM Südtirol - Alto Adige, Aree vacanze in Val Venosta in Alto Adige, in interrete sub: <https://www.venosta.net/it/aree-vacanze.html>, 14.10.2019) 一方、ドイツ語のサイト (IDM Südtirol - Alto Adige, Feriengebiete im Vinschgau in Südtirol, in interrete sub: <https://www.vinschgau.net/de/feriengebiete.html>, 14.10.2019) においては、車のアクセス (Anreise mit dem Auto) としてプレナー・アウトバーンによってボーツェンを経由する以外に、ミュンヘンからは2ルート (München - Rosenheim - Kufstein - Innsbruck - Landeck - Reschenpass および München - Garmisch - Fernpass - Landeck - Reschenpass)、ウルムから1ルート (Ulm - Kempten - Füssen - Fernpass - Imst - Landeck - Reschenpass)、オーストリア起点ではボーツェン経由以外に1ルート (Bregenz - Feldkirch - Arlberg - Landeck - Reschenpass) またスイスからは2ルート (Zürich - Landquart - Klosters - Vereinatunnel - Zernez - Ofenpass - Müstair - Taufers im Münstertal および St. Moritz - Ofenpass - Münster - Taufers im Münstertal) が紹介されている。このことからイタリアから北上するよりもドイツ、オーストリア、スイスからアクセスすることが容易であることが分かる。

参考資料

〔公的刊行物〕

- ・ Autonome-Provinz, Landschaftsbild Südtirol: Autonome-Provinz Bozen – Südtirol, Landschaftsleitbild Südtirol, veröffentlicht im ordentlichen Beiblatt Nr. 1 zum Amtsblatt der Region vom 21. Jänner 2003, Nr. 3
- ・ Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, St. Jb. 2018: Landesinstitut für Statistik Autonome Provinz Bozen Südtirol, *Statistisches Jahrbuch 2018/ Annuario statistic 2018*, p.44
- ・ STATUTO SPECIALE: STATUTO SPECIALE PER IL TRENTINO - ALTO ADIGE / SONDERSTATUT FÜR TRENTINO - SÜDTIROL
- ・ WIFO: Österreichisches Institut für Wirtschaftsforschung WIFO, *Südtirolswirtschaftsgeschichte unter der Lupe*, Wien

〔文献資料 (紙媒体)] 論文

- ・ 山田 (2017) : 山田徹雄「ティロル州と観光」跡見学園女子大学『マネジメント学部紀要』第23号、2017年
- ・ 山田 (2018) : 山田徹雄「ロイテ郡と観光」跡見学園女子大学『マネジメント学部紀要』第25号、2018年

〔文献資料 (紙媒体)] 著書

- ・ Brenner-Autobahn AG (1972) : Brenner-Autobahn AG (Hrsg.) : *Die Brenner-Autobahn. Die erste alpenüberquerende Vollautobahn*, Innsbruck 1972.

- ・ Denoth (2008) : Günter Denoth, *150 Jahre Eisenbahnen in Tirol*, Erfurt, 2008
- ・ Facchinelli (1995) : Laura Facchinelli: *Die Eisenbahn Verona-Brenner. Geschichte einer bedeutenden Verkehrslinie*. Bozen 1995
- ・ 自治体国際化協会『イタリアの地方自治』: (財)自治体国際化協会『イタリアの地方自治』2004年
- ・ 山田 (2015) : 山田徹雄『ドイツ資本主義と観光』、日本経済評論社、2015年

[オンライン情報] ドイツ語

- ・ Alto Adige, Feriengebiet: Alto Adige, Feriengebiete im Vinschgau in Südtirol, in interrete sub: <https://www.vinschgau.net/de/feriengebiete.html>, 14.10.2019
- ・ Brenner Autobahn AG: Context KKI, Brenner Autobahn AG, in interrete sub: <http://www.contextxxi.at/+brenner-autobahn+.html>, 13.10.2019
- ・ Euregio TST, EVTZ/EUROPAREGION: Europaregion Tirol, Südtirol und Trentino, EVTZ/EUROPAREGION, in interrete sub: <http://www.europaregion.info/de/evtz-europaregion.asp>, 08.10.2019
- ・ Euregio TST, Facts und Figures: Euregio Tirol Südtirol Trentino, Facts and Figures, in interrete sub: <http://www.europaregion.info/en/facts-and-figures.asp>, 14.02.2019
- ・ IDM Südtirol, Zahlen und Fakten: IDM Südtirol, Zahlen und Fakten, in interrete sub: <https://www.suedtirol.info/de/das-ist-suedtirol/zahlen-und-fakten>, 22.03.2019
- ・ IDM Südtirol, Regionen: Dolomieten : IDM Südtirol, Regionen: Dolomieten, in interrete sub: <https://www.suedtirol.info/de/regionen/dolomiten>, 22.03.2019
- ・ Ladinia, Die ladinische Sprache: Ladinia, Die ladinische Sprache::Die Sprache der fünf ladinischen Täler der Dolomite, in interrete sub: <http://www.ladinia.it/de/informationen/394/ladinia/die-ladinische-sprache>, 12.10.2019
- ・ Nationalpark Stilfser Joch: Nationalpark Stilfser Joch, Home, in interrete sub: <https://www.nationalpark-stelvio.it/de/nationalpark-stilfserjoch.html>, 11.10.2019
- ・ Naturpark Südtirol, Home: Naturparks in Südtirol, Home, in interrete sub: <https://naturparks.provinz.bz.it/>, 11.10.2019
- ・ ÖAMTC, Brenner Autobahn: ÖAMTC, Brenner Autobahn, in interrete sub: <https://www.oeamtc.at/poi/tollroad/sm-05>, 13.10.2019
- ・ S-Landesregierung, Bezirksgemeinschaft: Südtiroler Landesregierung, Bezirksgemeinschaft, in interrete sub: <http://www.provinz.bz.it/verwaltung/oertliche-koerperschaften/bezirksgemeinschaften.asp>, 08.10.2019
- ・ Wikipedia, Bezirksgemeinschaft: Wikipedia, Bezirksgemeinschaft in interrete sub: <https://de.wikipedia.org/wiki/Bezirksgemeinschaft>, 12.10.2019

[オンライン情報] イタリア語

- ・ IDM Südtirol - Alto Adige, Aree vacanze: IDM Südtirol - Alto Adige, Aree vacanze in Val Venosta in Alto Adige, in interrete sub: <https://www.venosta.net/it/aree-vacanze.html>, 14.10.2019
- ・ Titi tudorancea travel info, Regions: Regions: Emilia-Romagna, Lombardy, Veneto, Trentino-Alto Adige/Südtirol sub: https://www.titudorancea.info/z/autostrada_a22_del_brennero_brennerautobahn_italy.htm, 13.10.2019
- ・ Ladinia, La lingua Ladina: Ladinia, La lingua ladina / Nosc lingaz dla uma: La lingua delle cinque vallate della Ladinia nelle Dolomiti, in interrete sub: <http://www.ladinia.it/it/informazioni/394/ladinia/la-lingua-ladina>, 12.10.2019

[オンライン情報] 日本語

- ・ 工藤 : 工藤裕子「イタリアの特別州に見る政府間関係・行政イノベーション・財政分権化」p.185-187, in interrete sub: http://www.clair.or.jp/i/forum/pub/docs/h23_hikaku_houkokusyo06.pdf, 07.10.2019